

### 第3章 現状の課題認識等

#### 【学校】

- ・運動場は2,800 m<sup>2</sup>程度であり、120mトラックや50mの直線路が何とか確保できる状態です。充実した体育活動・運動部活動や運動会、体力測定等の教育活動において支障が生じています。対応としてサブグラウンドを確保し、学校運営を行っているところですが、敷地が離れていることから柔軟な活動が行いにくいなど、十分な教育環境とは言えません。
- ・普通教室について、近年児童数の増加により教室数が不足し、特別教室を普通教室に転用して対応した経緯があります。橘小学校のある中区は、都心回帰の動向によるものと考えられる人口流入が増加傾向であり、今後の状況によっては、周辺の開発等により若い世代の流入が想定され、教室不足の懸念があります。
- ・グローバル化や少子高齢化、一人1台タブレット環境の整備に代表されるICT化が急速に進展し、子どもたちを取り巻く社会状況が目まぐるしく変化しています。今後の予測困難な将来を生き抜いていく子どもたちを豊かに育てていくため、これからの学校というもののあり方がハード面・ソフト面それぞれから問われています。

#### 【生涯学習センター】

- ・子どもたちの自主的な活動拠点としての機能の充実が求められていますが、現状では若年層（小学生から大学生）の利用が少なく、若年層の生涯学習センターの活用意欲を促進していく必要があります。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、学びの多様化が進み、Wi-Fi環境によるオンライン講座の配信・開催等、多様な活動のための環境整備が必要となっています。
- ・体育室の利用率が直近3か年において約95%と高い状態が続いており、生涯スポーツに対するニーズが高まっていることから、その対応が求められています。
- ・多様な活動が実施できる集会室に比べ、目的が限定的な美術室や料理室の利用率が低い状況であり、特に料理室は経年による設備の陳腐化が利用率低下を招いていることから、機能を更新するなど、魅力的なものにしていく必要があります。

#### 【福祉会館】

- ・利用者ニーズの多様化に対応するため、定例の主催講座の開催だけではなく、利用者ニーズを捉えた映画会、随時開催する趣味講座など、趣向を凝らした事業を展開していますが、施設は建築から50年以上経過しており、講師の声が聞き取りづらい、体操教室をするには狭いなど現状の環境では実施内容に限界がある状況です。

- ・高齢者のスマートフォン所持率が増加しており、スマートフォン教室をはじめとした ICT 機器を活用する機会が増えており、Wi-Fi 環境の整備など、必要な環境づくりが求められています。
- ・本市における 65 歳以上人口の割合は 25%を超え、超高齢社会を迎えており、シニアライフを充実させるという福祉会館の役割は、今後さらに重要になることが見込まれ、魅力ある施設にしていくことが求められています。

#### 【児童館】

- ・建設当初に求められていた児童の遊び場としての役割に加えて、子育て支援、中高生の居場所づくりなどの新たな役割や、利用者ニーズに応えるための機能が必要とされています。
- ・児童館には中高生世代の様々な活動の場、支援の場としての期待も寄せられており、バスケットボールなどの運動活動、ダンスや音楽活動等、中高生世代の「やりたいこと」を実現できる環境や、ゆっくり会話ができるくつろぎスペースの設置など、中高生世代の子どもたちに日常の居場所として魅力を感じてもらえるような取り組みが必要とされています。
- ・児童館では中高生の利用しやすい時間帯（17 時以降）に、週 1 回程度、中高生の居場所づくりを実施していますが、「週 1 回では利用しづらい」、「もっと遅くまで利用したい」等の声があり、日数の増等の事業拡大について検討が必要とされています。
- ・ベビーチェアなどを設置したバリアフリートイレや広いベビーカー置き場など、乳幼児期の保護者が快適に児童館を利用するための機能が求められています。
- ・乳幼児期の保護者を中心に車による児童館来館の需要が高まっており、その対応が求められています。